

男性による孫の育児に関する社会学的研究
A sociological study of grandfathers' childcare

コース 社会学

学生氏名 中島 雅国

キーワード： 祖父 孫 育児 ライフヒストリー
Key Words： (Grandfather) (Grandchild) (Childcare) (Life history)

本論文は、ライフヒストリー分析の手法を用いて、男性による孫の育児支援の実態を明らかにするとともに、どのような要因が男性による孫の育児に影響を与えているのかを研究することを目的とするものである。

本来、子育ては親が行うものであるという前提はあるものの、先行研究では育児期の子夫婦は祖父母から何らかの育児支援を期待しており、祖父母も子夫婦の育児を手伝うべきだとする認識が高い傾向にあることが明らかにされている。このように、祖父母の育児支援の必要性が明らかにされているにもかかわらず、これまでの祖父母の育児支援研究は量的調査による育児支援の実態に関する研究のみで、祖父母による育児の規定要因に関する研究はほとんどされてこなかった。さらに、祖父母の中でも祖母に焦点を当てた研究が多く、祖父に焦点を当てた研究はない。しかし、近年、祖父を対象とした育児に関する様々な活動が行われたり、祖父を対象とした育児書が発行されたりしているように、育児支援者として祖父に関心が持たれている。

本論文は、質的調査を通して男性による孫の育児支援の実態を明らかにした点、ライフヒストリー分析を用いることによって男性が孫の育児を行うに至った要因を分析した点で意義があるといえる。

日常的に孫の育児を行っている男性のライフヒストリー分析を通して、男性による孫の育児には、(1)「状況要因」、(2)「意識要因」、(3)「支援可能資源要因」の3つの要因が影響していることが明らかとなった。彼らは、(1)子夫婦から育児サポートの需要がある場合や自分以外に子夫婦をサポートする人がいない状況にある場合(状況要因)、(2)子夫婦をサポートすることが重要であると認識している場合や子夫婦に対して罪責感を持っている場合、そして育児支援をしなければならないという責任感を持っている場合(意識要因)、(3)本人が育児スキルを持っている場合や時間的に余裕がある場合(支援可能資源要因)に、孫の育児を行なっていることが明らかとなった。なかでも、子夫婦から育児サポートの需要があること、本人が育児スキルを持っていること、時間的に余裕があることは、男性による孫の育児を規定する要因として、より強く影響していた。